

七夕にちなみ、東日本大震災の被災者を励まそうと西宮市内の大学生のグループが応援メッセージを書いた短冊を来月、仙台に届ける。学生たちは18日、市民らに呼びかけてメッセージを書いてもらった短冊1364枚と寄せ書きを、市

内を訪ねた東北のボランティア関係者に手渡した。8月6～8日に仙台市である「仙台七夕まつり」の会場で飾られる。グループの学生は「被災地を忘れないという気持ちを伝えたい」と話す。  
【釣田祐喜】

東日本大震災

一日でも早い復興を

西宮の大学生 短冊でメッセージ

グループは関西学院大や武庫川女子大など、西宮市内の9大・短大の学生約35人。「学業を続けながら被災地支援をしたい」と、東日本大震災のあった2011年から毎年、取り組みを後継に引き継ぎながら、応援のメッセージを届けている。今回は6、7月に各大学や市内で呼びかけ、市民らにメッセージを書いてもらった。

18日、市内を訪れた東日本大震災の被災地でボランティア活動に携わる東北大の村松淳司教授に短冊を手渡した。

短冊には「一日でも早い復興を願っています」「どうかお体を大事に」など被災者を思いやる言葉が並ぶ。チームの中心メンバーで、武庫川女子大4年の二宮愛さん(21)は「東日本大震災から5年以上たち、被災地への関心が薄れているように思われい話をしていた。

市民1364枚の願い 仙台へ



東日本大震災被災地に届ける短冊や寄せ書きを手にする学生ら＝西宮市で

宮愛さん(21)は「東日本大震災から5年以上たち、被災地への関心が薄れているように思われい話をしていた。